

# 株式会社小川

## SDGsの取組

取組・活動内容	<p>株式会社小川は昭和8年創業、洋傘製造卸業として88年ほどの老舗企業です。ビニール傘の使用量は年間7000万本とされています。その大半が1年で捨てられています。ビニール傘自体は先代である小川仙太郎が50年ほど前に開発した画期的な商品でした。プリント柄が入ったファッション性のある傘でありかつ透明で視界性の優れた傘でした。そのビニール傘がこの数十年で日本では使い捨てアイテムの象徴になってしまいました。そこで弊社は2020年会社ビジョンを改正し「weather tech企業になる～気候変動に関わることのお役立ちとして、独自性のある商品、サービスを提供する会社になる。～」というビジョンのもと、新分野事業として、企業などに対して傘のシェアリングサービスを提供することになりました。企業が社員への福利厚生を目的としながら、企業側は無償で貸し出しをすることにより、使い捨て文化の象徴の傘を社員間でシェアリングすることにより環境へ貢献できると考えました。この度弊社独自開発で、アプリを制作し傘什器には制御装置を配置しICカードによるシェアリング出庫記録をもとにCO2削減を可視化するサービスします。企業など団体が社員、スタッフなどにシェアリングすることでSDGsの目標達成に貢献できるようになります。弊社としてより多くの企業様に使用していただくことにより弊社が掲げるSDGsの目標を達成をし地球の環境に貢献したいと考えております。</p>		
	目指すゴール	取組・活動内容とゴールとの関係	目標
	経済 8	傘シェアリング制御装置付き什器の開発	2027年クライアント社員の安価ビニール傘の割合をゼロにする。2027年傘シェアリングでの売上を1億を目指す。
	社会 12	・傘骨と生地を分離できる構造の傘を開発	傘の故障の交換するのとで捨てる傘を減少させる。2027年には年間1万本のリサイクルを実現する。
環境 13. 14. 15.	・アプリの導入	・傘を捨てなければ1本CO2693g削減される。2027年年間50万tのCO2削減を目標にする	